「政治」で日本の真似をすると、たいてい「ろくでもない」結果となる。１９３３年、国際連盟は日本の作った満州国を不承認、日本軍の撤退と列強による満州の共同管理を決議した。採決の結果は、賛成４２、反対が１、棄権が１。云うまでもなく、反対１は日本、翌月日本は国際連盟から脱退、松岡洋右代表が議場から退出する光景は、古い白黒ニュース映画で何度か見たことを記憶している人は多いが棄権の１がタイ（当時の国名はシャム）であったことを覚えている人は少ない。

続いて１９３９年、タイはビルマに隷属させられていた、北隣りのチェンマイ王国（ランナータイ王国）を併合、この時の大義は「ビルマの脅威をタイ自身で守る」にあったが、併合までに到る、数年間に亘るタイとチェンマイの動きは、日本の朝鮮併合の手法や経緯に似たものが散見出来る。

過去数百年来、タイはビルマの侵略をくり返し受けて来た。バンコクの北７０Ｋｍにある前王朝アユタヤの都が、ビルマ軍の攻撃を受けたのは２００年前、破壊された遺跡が今もなお残されており、見る度に痛々しい。タイは西にビルマと接しているが、１０００Ｋｍにもおよぶ国境は険岨な山々や、人も通れないようなジャングルにはばまれている為に、ビルマがタイへ侵入する時は必ずチエンマイ王国へ入って、そのままほとんど障害物なしに南下してタイを襲う。チェンマイの人々には気の毒だが、タイがチェンマイを併合したがっていた心情は理解出来る。

１９４１年１２月、日本は米英蘭に宣戦を布告した。２ケ月遅れて１９４２年１月に、タイが米英に宣戦布告したのは「無謀」というより為政者が「狂っていた」としか言いようがない。もっともこれは日本の圧力でタイがそそのかされたと言うべきで、真似をしたと決めつけては可愛そうだ。１９４４年１１月、アメリカのＢ－２９による東京大空襲が始まり、翌月の１２月タイではバンコックの東カンチャナブリー地方が連合軍による大空襲を受け、甚大な被害を被っている。

日本の明治時代から、タイでは近代化を急ぐあまり、政府は外国から顧問を招いて、改革を進めて来た。政治や法律の立案にあたっては、宗教的にも文化的にも近い日本人の専門家を重用してきた事実がある。このことから戦前戦後を通じて政治のシステムが全般的に日本に似てきて、官僚層の権力的地位は圧倒的に高く、立法府は軽視され勝ちだ。政治活動の目的は、私的な権益の獲得に置かれることが多く、理念の追求に精を出す政治家が少ない。

選挙戦は、対立候補のスキャンダル暴露合戦に終始、政党の鞍替え、小党乱立、政党間の離合集散が激しい。だから必ず連立政権となり政権の基盤が弱い。そして、カリスマ的なリーダーシップの強い政治家が不在で、政官は上下を問わず伝統的に汚職にまみれている、その結果投票率が低くなるのも日本と同じ。

しかしタイには日本に無いことが一つある。それは「クーデター」。概して軍人は教養が高く、熱血漢が多い。政治が目に余る腐敗を呈したり大きな失敗をやらかすとクーデターが起こる。過去６０年間に２１回のクーデターが起きている。平均して３年に１度、オリンピックよりも頻度が速い。しかも、ほとんどが「無血クーデター」に終わり、事後の新態勢は国王に容認される内容でなくてはならないという「不文律」のようなものがあるのは感心だ。

街中を戦車が走り、夜間外出禁止令が出ても、人々は驚天動地するわけでもなく、「またか？」と思うだけ多くの企業や家庭でもクーデターに対処するマニュアルが出来ているようだ。政治や経済が混乱してもベストの手段とはいえないが「クーデター」が手っとり早い「自浄作用」となって軌道が修正される。

日本ではこういった「健康的なクーデター」の発生による改革は期待出来ないから、急がば廻れで、地道な市民運動を盛り上げていくしかないが、改革への道のりは遠いかも知れない。しかし私はあきらめない。

「活動協賛金」ご協力のお願い

平成維新東京の活動をより活発にするため、「活動資金」を募集しています。

多くの皆様のご協力をお願い申し上げます。

協力金：１口・２０００円（２口以上歓迎！）

郵便口座番号：００１２０－０－７７２０３６

郵便口座名称：維新都民

日本を国民主権の法治国にしよう。
人類の幸福の向上に貢献出来る事を願って活動する

花和（ハナワ）グループ

HANAWA

(有) 花和ビル
(株) 花和
(有) パステルハウス
(有) 葉明